

機械工学実験Ⅱ (Experiment of Mechanical Engineering II)		5 年・前期・2 単位・必修 機械工学科・担当 和田 任弘, 榎 真一, 酒井 史敏, 谷口 幸典, 福岡 寛	
〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (2)	〔システム創成工学教育プログラム 学習・教育目標〕 D-1 (100%)	〔JABEE 基準〕 (d-2b), (d-2a)	
〔講義の目的〕 4 年次の機械工学実験Ⅰでは主に基礎専門科目に関する原理および現象などの基礎知識を深めることを目標としたのに対し、5 年次では各種基礎専門科目を複合した内容や 5 年次で学習する専門科目に関係する内容の実験を行い、各専門科目間の相互関係などの理解を深め、同時に広範囲の専門知識を習得する。			
〔講義の概要〕 機械工学実験Ⅰと同様、配布プリントに基づき実施する。第 1 講はガイダンスを行い、第 2 講より班 (6, 7 人程度) 毎に各実験を受講する。			
〔履修上の留意点〕 実験ノートを作成し、実験のポイントなどレポート作成に必要な事項についてメモをとること。また、実験を正当な理由で欠席した場合は、欠席 1 週間以内に追実験願いを提出すること。レポート提出期限は厳守すること。遅れた場合、そのレポートは 0 点となるので注意すること。指導書に基づき実施する。レポート提出時に質疑応答を行うので実験内容をよく理解すること。			
〔到達目標〕 1) 各実験の内容を理解し、関連科目に関する原理および現象などの理解を深めること。 2) 実験に用いる機器を正しく安全に扱い実験を行うことができること。 3) 適切な方法を用いて結果整理ができること。 4) 実験によって得られた結果から適切な考察を行うことができること。 5) 次の事項に従い、充実したレポート作成ができること。 ・一定の形式に従いスタイルを統一する。 ・論理的で正確な表現をする。 ・見やすく理解しやすい図、表を作成する (図、表は英文で書くこと)。 ・事実に基づいた意見 (考察) を述べる。 ・適切な参考文献を引用する。 6) 自分で書いた文章に責任を持ち、レポート指導時における討論で適切な意見を述べるができること。			
〔自己学習〕 基礎事項については、これまでの教科書および参考書を用いて、十分に予習を行うこと。また、レポートを通して復習し、実験中に理解できなかった部分については、次の時間までに補うこと。			
〔評価方法〕 実験態度 (40%)、レポートの内容 (50%)、レポート指導時における討論(10%)を総合して評価する。			
〔教科書〕 配布プリント 〔補助教材・参考書〕 各種専門図書			
〔関連科目〕 機械工学に関連した分野			

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	ガイダンス	安全実験指導, 実験受講に対する注意, 実験レポートの作成要領について説明する.	
第2週		実験テーマ名 < 材料力学・材料学実験 > ・電気抵抗線ひずみ計によるはりの応力分布 ・他 < 塑性加工学実験 > ・圧縮試験による変形抵抗曲線の測定 ・リング圧縮試験による工具・被加工材間の摩擦係数の同定 < 流体力学実験 > ・管路の損失水頭の測定 < 熱工学実験 > ・内燃機関の性能試験 ・蒸気工学実験 < 機械工作実験 > ・切削抵抗の測定(1)(2) < 制御工学実験 > ・コンピュータを用いた制御系設計 ・位置の計測と制御 < 設計工学実験 > ・プレス加工実験 ・他 グループごとに年間を通じて, 上記テーマを実施する. 必要に応じて, 全体でのレポート指導を行う.	
第3週			
第4週			
第5週			
第6週			
第7週			
第8週			
第9週			
第10週			
第11週			
第12週			
第13週			
第14週			
第15週	前期工学実験のまとめ		
第16週	ガイダンス		
第17週			
第18週			
第19週			
第20週			
第21週			
第22週			
第23週			
第24週			
第25週			
第26週			
第27週			
第28週			
第29週			
第30週	後期工学実験のまとめ		

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)